

# 平成29年 年頭あいさつ

飯南町長  
山崎英樹



新年明けましておめでとうございます。  
町民の皆様には、お健やかに平成29年の初春をお迎えることと、心からお慶び申し上げます。  
また、日頃から町政の運営に際しまして、温かいご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。



笑顔のリレーを未来へ

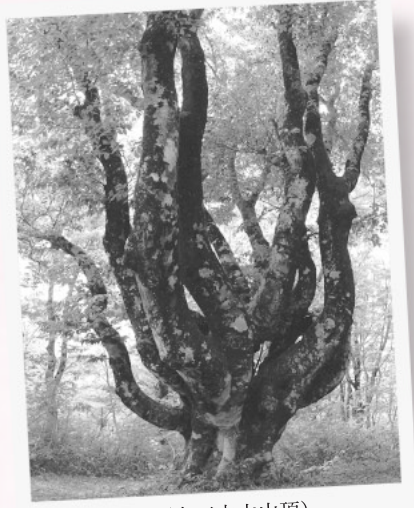


町を代表する伝統産業「しめ縄」

昨年10月に平成27年度に実施された国勢調査の結果が公表され、本町の人口は5031人、前回調査の平成22年から503人減少。人口減少、少子高齢化は簡単には止められない課題ではあります。  
そのような中、昨年12月末に発売された「宝島社」の『第5回日本「住みたい田舎」ベストランキング』の中国エリア部門で、「総合」「若者」「子育て」「シニア」の4部門中、総合を除く3部門で第1位となりました。一時の数字に一喜一憂してもいけないのですが、このことは、一朝一夕にできることではなく、今後も地道に取り組んでいけば、結果は現れると思います。引き続き、町民の皆さんの住みやすい環境づくりに努めてまいります。

さて昨年を振り返ってみますと、「災害は忘れたころにやってくる」と言いますが、忘れるどころか、4月には熊本地震、10月には鳥取中部地震と、東北の大震災覚めやらぬ中で起きたところであり、台風豪雨による大きな災害も発生しました。  
そうした中、1月末の大雪は本町でも水道施設、ピニールハウスなどに大きな被害をもたらしました。その後は、大きな災

害もなく、秋には例年以上の品質と収量で、米の収穫も行われました。  
5月には、待望の新庁舎の完成、頓原基幹支所での業務を開始しました。頓原公民館を中心とする複合施設の建設も順調に進んでおり、今春のオープンが心待ちにされているところです。  
行政推進においては、今後10年のまちづくりの基本となる「第2次総合振興計画」、各分野での取り組みを示す「教育施策大綱」「健康いいなん21」「農業振興計画」などの重要な計画の策定、「地方創生・総合戦略」も2年目に入り、本格始動しました。  
そして、子育て支援として「第3子以降の出産祝い金」「子育て世帯給付金」制度、園芸リースハウス団地の作付け、デマンド型乗合タクシーの実証運行など、新たな取り組みも始めました。また、「医療と教育の無いところに定住はない」との考えのもと、飯南病院では、町内福祉施設の皆さんと共に「地域包括ケアシステム」の構築を進めました。



町の木「ブナ」(大万木山山頂)



サイクリングを通じた交流も活発化



若者の活躍は町の元気の源

教育の面では、飯南高校では、町民の皆さんのご協力により、県外生に本町を第2の故郷としていただくための「ホストファミリー」制度も動き始めました。新しい寮、テニスコート、ハンドボールコートも完成したところです。赤来中学校、頓原中学校、飯南高校の吹奏楽部は、昨年に続き3校そろって、全日本吹奏楽コンクール島根県大会で「金賞」を受賞。飯南高校は、最優秀賞を獲得し、2年連続で同中国大会に出場し「銀賞」を獲得しました。こうした、町内各学校の若者の各大会や地域活動での活躍は、地域の元気の源となっているところです。

本年も「笑顔あふれるまちづくり」を目標に、子どもから高齢者まで誰もが生き生きと、安心して暮らすことのできるまちづくりに全職員一丸となって取り組んでまいります。

新年が飯南町と町民の皆様にとりまして、夢と希望に満ちた幸多い年となりますようご祈念申し上げます。年頭のあいさつといたします。